

サポート

No. 204

令和6年12月12日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

比内支援学校創立50周年

未来へ広がれ笑顔と絆の輪 ～50年の「ありがとう」とともに～

本校は今年度、学校創立50周年を迎え、様々な事業を通して創立50周年をお祝いしてきました。「児童生徒が主体の50周年記念事業に」という共通理解の下、児童生徒の言葉をつないでキャッチフレーズを設定し、ロゴマークは高等部3年生の新倉衡大さんが本校に馴染み深い達子森をモチーフにデザインしました。また、学校の玄関ホールには児童生徒会で企画した「ありがとうの木」があり、たくさんのありがとうのメッセージが書かれた花が咲いています。加えて「創立50周年記念運動会」では農場での全校リレー、「創立50周年記念達子森の夏祭り」ではメッセージ花火の打ち上げや児童生徒の願いを書いた「ルミエム（夜空で光る発光体を付けた風船）」を夜空に飛ばすなど、行事ごとにも創立50周年をお祝いする特別な企画を盛り込んできました。

そして、去る10月5日（土）には約160名の御来賓、保護者をお迎えし、記念式典を挙行了しました。当日は、前日までの雨も上がり、「50」の文字を型取ったペチュニア（高等部農園芸班が種から育てました）の花壇も正面玄関でお客様を迎え、記念すべき日に華を添えました。記念式典では、秋田県教育委員会委員 教育長職務代理者の吉村昌之様より御祝辞をいただいたほか、永年に亘って本校の教育活動に貢献していただいた皆様に学校から感謝状を贈呈しました。5名の表彰者を代表して陶芸の特定教科等講師の芳賀貞夫様より御挨拶をいただき、その御挨拶を拝聴し、これまで本校に関わってくださったたくさんの皆様の御厚意や御支援により、今があるのだなと本当にありがたい思いでいっぱいになりました。記念式典の最後には児童生徒代表として高等部3年生の千葉慎一郎さんより、3年間の学校生活や地域で本物を学ぶ学習を通して就きたい職業の目標ができ、現在はコミュニケーションの力を高めることを頑張っていること、今後も成長し続ける比内支援学校を温かく見守り、支えていただきたいことなどの挨拶がありました。大勢のお客様を前に、緊張しながらも堂々と立派に挨拶をすることができました。

アトラクションは、中学部・高等部の生徒2名が司会を務め、4つの演目を披露しました。最初は大館曲げわっぱ太鼓振興会の大沢しのぶ様の御指導の下、練習してきた「比内祝い太鼓」の演奏、次に「50周年記念事業の取組」のスライド紹介、小学部児童による「にじ」の歌唱、最後は、小学部・中学部・高等部児童生徒による「よさこい『絆舞桜』」の演舞です。一人一演目に出演しており、司会も含め、どの演目も何度も何度も練習を繰り返し、練習の成果を十二分に披露することができたアトラクションでした。御来賓の皆様からは、「素晴らしかった」「児童生徒が中心となって進められている」等、たくさんのお褒めの言葉をいただき、中には涙ぐんでいる方もいらっしゃいました。ステージを終えて体育館を出てきた児童生徒は皆、満足気な笑顔で、一人一人がもてる力を存分に発揮したことが表情からもうかがえました。（比内支援学校 教頭 佐藤 香代子）



【児童生徒代表あいさつ】



【比内祝い太鼓】



【ロゴマーク】

能代支援学校創立30周年

Well-being つながる思い 拓く未来

県立比内養護学校ねむの木分校を前身とし、平成6年に能代養護学校として開校した本校は、今年度創立30周年を迎えました。10月19日(土)には能代文化会館において、131名の来賓、保護者の皆様に参列していただき創立30周年記念式典を挙行了いたしました。

式典では、児童生徒を代表として児童生徒会長が挨拶の中で、新型コロナウイルス感染症による制限がなくなり地域の人々との交流が復活したことの喜びとその当たり前の日常への感謝、今後地域に開かれた学校として地域に貢献していく決意を述べました。式典中、本校の特色ある教育活動を長年にわたり支えてくださった地域の方々に感謝状を贈呈いたしました。学校林活動、白神ねぎ栽培、介護職員初任者研修、校外でのカフェ、ミュージカルなどの指導に携わってくれている皆様の笑顔、児童生徒に向けて喜びを表現する姿に本校と地域の強いつながりを感じました。



【児童生徒会長あいさつ】

式典終了後の記念公演は、小中学部によるオープニング「学校誕生会」で始まりました。30周年を祝う神輿ケーキが練り歩き、学校の歩みを群読し、ステージ上と観客席の児童生徒がハッピーバースデーの歌を合唱して会場を盛り上げました。今年度で29回目となる高等部によるミュージカルは、30周年記念作品として新作「ごんぎつね～伝えたいこと～」を上演しました。日本児童文学の定番である「ごんぎつね」に能代支援学校バージョンとしてアレンジを加えながら、「気持ちを伝える」をテーマに制作しました。地域の先生方から演技や歌、ダンスの指導をしていただいて、生徒一人一人が練習に取り組んだ成果を本番で発揮し、最高の舞台とすることができました。

式典の記念品として、中学部、高等部の木工班が地域の企業の御協力を得ながら製作した「木製マグネットバー」、高等部農園芸班が栽培したりんごを使った果汁100%の「りんごジュース」、創立30周年記念ロゴマーク「Well-being」をあしらった「記念トートバッグ」「記念クリアファイル」を来賓の皆様に差し上げました。今年度より本校では作業学習製品の開発と改善の取組として、日常の生活のなかに溶け込むような飽きのこないデザインと手ごろで繰り返し利用しやすい製品の製作を目指しています(「フダンヅカイ Products」と呼んでいます)。今回の記念品もそれらの製品のの一つとして皆様に普段使いしていただきたいという思いで作りました。

創立30周年を経て、志を新たに、子どもたち一人一人の確かな成長を促す教育を、地域の皆様とともに推進していきたいと思ひます。

(能代支援学校 教頭 小玉 慎也)



【小中学部 学校誕生会】



【高等部 ミュージカル「ごんぎつね～伝えたいこと～」】



ゆり支援学校コミュニティ・スクールの取組 ～地域とともにある学校を目指して～

本校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなってから、7年目を迎えました。委員の皆様や地域の方々のお力添えを得ながら「地域とともにある学校」を目指しています。

ここでは、9月20日に行った第2回学校運営協議会（熟議）について紹介します。

熟議で話しっこ「聞ぐべ」 ～児童生徒の生涯学習の充実に向けて～

熟議には学校運営協議委員の他、卒業生、本校保護者、地域ボランティア、福祉施設や福祉行政関係者、地元企業の方々が参加し「障害者の生涯学習（「ゆり支援の子どもたちの充実した生涯学習のために、私たちができること」）をテーマにグループで語り合いました。

はじめに、県教育庁生涯学習課：三浦智己 社会教育主事の講話「障がい者の生涯学習」から、意義や経緯、国・県の動向などについて学びました。その後、3つの小テーマを基に3回に分けてグループメンバーを交替しながら話し合いを行いました（下図参照）。

熟議1（ラウンド1）：ゆり支援学校の子どもたちのための「楽しい学びの場」とは？

熟議2（ラウンド2）：「楽しい学びの場」を実現するため必要なことや課題は？

熟議3（ラウンド3）：熟議2の課題を解決するために私たちにできることは？

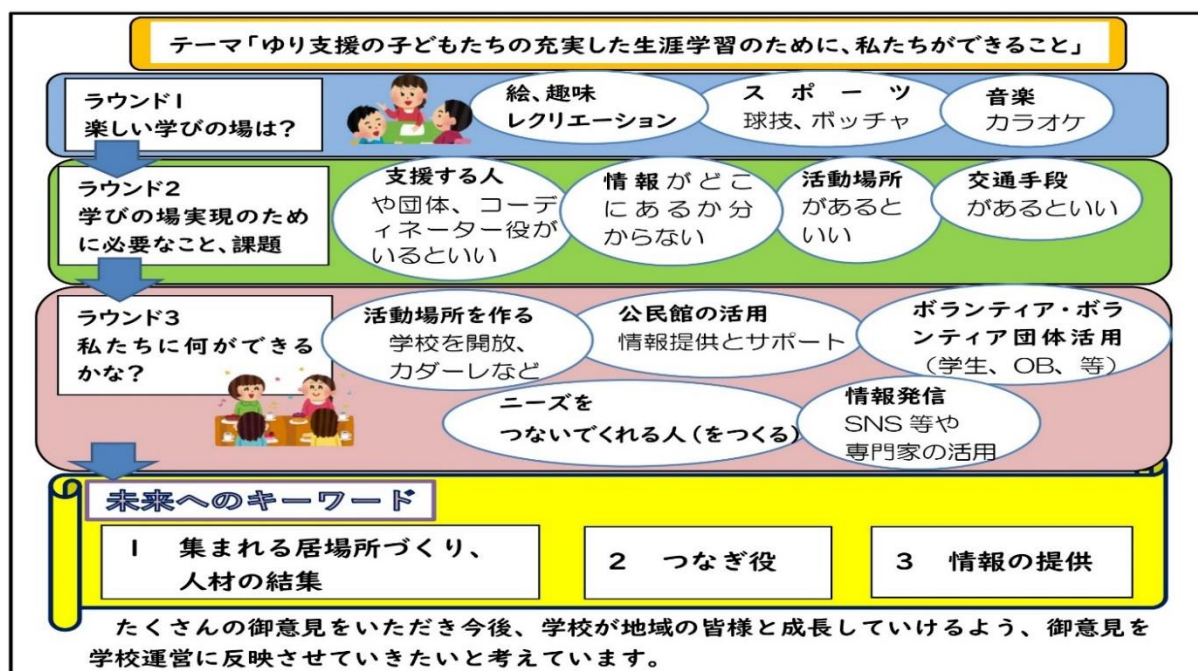
熟議は、自己紹介からスタートしそれぞれの立場から多様な意見が出されました。熟議には「熟議のマナー」として『会話を楽しむ』『否定せず受け止める』『みんなが話す』などがあります。多様な意見をじっくり聞いたり、伝え合ったりしながら、最後はミックスジュースのように意見が調和し、本校児童生徒の生涯学習の充実に向けた（未来への）キーワード「集まれる居場所づくり・（そのための）人材の結集」「（当事者と場の）つなぎ役の存在」「情報の提供」といったキーワードが導かれました。今後、キーワードを基に関係者間で連携しながら、本校の児童生徒・卒業生の生涯学習の充実に向けた新たな一歩へつなげたいと思います。（ゆり支援学校 教諭 大庭 せい子）



【卒業生を交えて】



【関係者で思いを共有して】



図「ゆり支援学校 CS 通信第2号」から抜粋

「通級による指導実践研修」は、提示授業に基づく協議等を地域の通級による指導担当教員を含めて実施することにより、担当教員の実践的指導力の向上を図る研修です。

本人の「夢や願い」「目標」を大切に ～由利本荘市立鶴舞小学校～

特別な支援を必要とする幼児児童生徒の自立と社会参加に向けて「切れ目ない支援」は重要です。「切れ目ない支援」につながる、校種間や関係機関との連携には、個別の教育支援計画が手立ての一つとして挙げられています。今回は、個別の教育支援計画作成の上で大切な本人の「夢や願い」「目標」を教師や保護者との対話を通し、自分のよさや長所を含めて気付くことができる「私の応援計画*」を活用した通級指導教室での自立活動の実践を紹介します。

*秋田大学教育文化学部附属特別支援学校で作成・活用

○単元名「わたしの応援計画～中学校に向けてチャレンジ～」(対象児童6年生)

<単元計画>

①「My sheet～わたしの思いいっぱいシート」の作成

- ・好きなことや得意なこと、苦手なこと、やってみたいこと、興味あることなどを学校や家庭などの場面に分けて整理して、シートにまとめる。

②「わたしの応援計画Ⅰ～Dream sheet『なりたい自分』に向かって～」の作成

- ・①のシートを基になりたい自分について考えを深め、『なりたい自分』とそれに向けて必要な力や頑張ることについてシートにまとめる。

③「わたしの応援計画Ⅱ～Try sheet『わたしのやってみたいこと・がんばること～』の作成

- ・②のシートを基に学校や家庭で具体的に取り組むことをシートにまとめる。



以上の①～③の学習活動で計画されていました。今回参観したのは、②の活動の時間でした。

当日、対象児童は参観者の多さに緊張し、言葉少なげな様子でした。しかし、導入での記号まとめのトレーニングで集中力を高めたり、前時にまとめた「My sheet」を見て、家族や先生方から自分の良いところについてたくさん伝えてもらったことを振り返ったりしたことで、だんだんと自分に大切なことを声に出して「Dream sheet」を形作っていくことができました。授業者のキーワードを引き出すさりげない言葉掛けや粘り強く児童の発言を待つ姿勢が安心して発言できる雰囲気につながり、対話が効果的に図られた一時間でした。

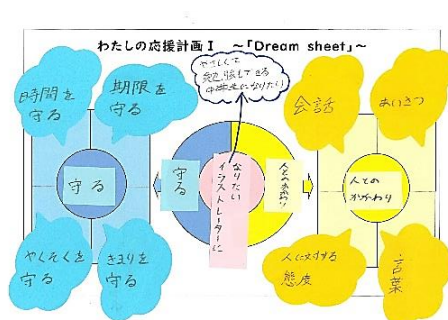
授業者からは、成果として「児童が自分のよさや気持ちについて整理する機会となった、周りの大人から自分のことを教えてもらう中で自分を見てくれている人がいるうれしさに気付くことができた、中学校進学や将来に向けて、前向きに取り組もうとする意欲につながった」などが挙げられました。対象児童の変容としては、学級で自分の気持ちを伝える場面が増え、「ここまでやってみる!」「これならできそう!」と前向きな発言が増えたそうです。

このような自立活動の実践が、特別な支援が必要な子どもの自己理解や個別の教育支援計画作成における本人や保護者の当事者意識につながると考えます。今後、「思いや願い」を大切にしたい個別の教育支援計画が支援に必要なツールとして活用されることを期待したいと思います。

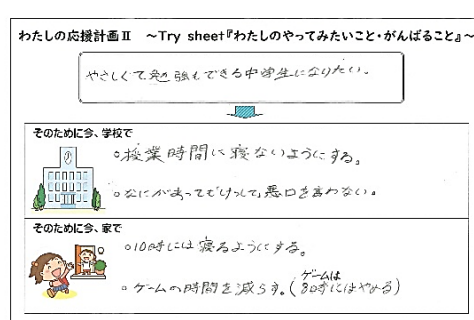
(中央教育事務所由利出張所 指導主事 高橋 直志)



【My sheet】



【Dream sheet】



【Try sheet】